

キャリアデザインを考えよう

就職活動で最も問われるのは「大学生活をどう過ごしたか。そこで何をえたか」。大学生活を有意義に送る動機づけとなる「キャリアデザイン」にかかわる講座が2本、生田キャンパスで行われた。

市民参加型の行政運営を語る

前我孫子市長・福嶋 浩彦さん

ネットワーク情報学部主催・キャリアデザインセンター協賛のキャリアデザイン講演会が、5月15日、ネットワーク情報概論2(小林隆教授担当)内で行われた。

講師は1995年に38歳で千葉県我孫子市長に当選し、2007年1月まで3期12年務めた福嶋浩彦さん。学部3年次生を中心に教職員を含む約300人が参加した。福嶋さんは「市民自治と新しい公共」をテーマに、市の補助金の市民審査、常設型市民投票条例、コミュニティービジネスの育成、市民債による自然環境の保全など、市長として実践してきた市民中心・市民参加型のオープンな行政運営を紹介。



▲オープンな行政運営について具体例を紹介する福嶋さん(円内も)

「地方分権の時代にあっては、自治体も市民も今まで以上に地域のことは地域で決定していくことが求められる」と述べ、「大きな公共を実現するための小さな政府作りが必要である」と強調した。

講演のあとの質疑応答では、公共サービスにおける民と官との役割分担や、市民が積極的に政治参加するための意識改革について意見が交わされ、学生たちが公共について考える機会となった。

コミュニケーションの「基本」を実践指導

ハナマルキャリアコンサルタント・上田 晶美さん

女子学生対象の消費者と企業のパイプ役(HEIB職)を目指す「HEIB講座」では、ビジネスやキャリアへの意識を醸成させたり、講演、プレゼンテーション能力向上のための実習、企業見学などを通じて、「社会」に意識を向けさせてきた。

5月17日には、ハナマルキャリアコンサルタント代表でキャリアディベロップアドバイザーの上田晶美さんを招き、「大学生活とキャリア設計」を考える講座を行った。

多くの大学生と接してきた上田さんは、「学生生活が充実していた人は就職活動も順調にいく」として、適職に就くためには「自己分析」と「産業知識」の両方が大切であり、「コミュニケーション能力」の向上には、異世代間交流や、ゼミでのプレゼン・ディスカッションが有効だと話した。

講演後、自己紹介の指導を受けた学生たちは2人ひと組で実際に自己紹介をし、第一印象の大切さ、論理的な話し方、相手に即した話題の選び方などを学んだ。

最後に「学生生活振り返りシート」を紹介した上田さんは、3年次生には「何をえたか」の具体的な記入に、1・2年次生には、大学生活の計画シートとして活用してほしいと締めくくった。

麻疹（はしか）について — 保健室から

講義が再開されました。麻疹はまだ流行しています。最初の症状として留意してほしいのは微熱、鼻水など、いわゆるかぜ症状です。

心配ならこの段階で受診することは勧めますが、医療機関でも、かぜと麻疹の初期の区別はしかねます。どちらにしてもかぜ薬を服用して様子を見る程度です。ですから、抗体の有無、もしくはワクチン接種歴を再度確認して「抗体無し」ならワクチンを接種しておくというのが大事ということになります。ただし通常でも、抗体検査をして判明するのは約1週間かかりますが、現在は検査が殺到していて数週間を要していますので、今回の流行期間には間に合わない可能性があります。また、ワクチンも在庫が不足している状況です。そこで対処法としては「抗体が無い」か不明の人は、しばらく（絶対に）必要な場合以外は人込みを歩かないこと、また、かぜ症状が出たら外出は控えることです。もちろん、高熱が出たり体中に発疹が出たら麻疹が強く疑われるので、解熱後3日まで外出は禁止です。

ただし、肺炎や脳炎などを合併した重症例は入院も必要となりますので、その可能性が心配ならば保健室や医療機関に相談してください。

（代表学校医・成田信義）

▼生田保健室 電話 044(911)0503

▼神田保健室 電話 03(3265)6219

HEIB講座の林さん 多摩区情報誌「ぐるぐるたまぐ」編集に協力

女性の視点で“魅力”発掘

川崎市多摩区内の大学に通う女子学生や子育て中のお母さんの視点で区内の魅力を紹介した情報誌「ぐるぐるたまぐ」が、このほど多摩区役所から発行された。本学からは、HEIB講座で活動している林沙央梨さん(経営2)が取材と編集に活躍、キャンパスの魅力やお勧めスポットを紹介している。

「読書が趣味」という林さんのキャンパス内でのお気に入りには、「コミック&スポーツ」の閲覧室がある図書館分館と、開放的な雰囲気のある学食「CABIN」。向ヶ丘遊園駅から徒歩15分の生パスタがおいしいイタリアンレストランは、HEIB講座の講師の先生や友人と利用しているグルメスポットだという。

「情報誌のタイトルを決める話し合いは、白熱して面白かったです。文章を書くのは好きなのですが、紹介文を短くまとめるのに苦労しました」と振り返り、「専大の魅力を他大学の学生や高校生に知ってほしい」と話す。

1年次からHEIB講座に入会して司会や総括、ポスター制作などをこなしてきた林さん。「責任を持って取り組むことの大切さと同時にやりがいを感じます」と自らの成長を実感し、今回の情報誌作成も「インターシップ」経験として今後の夢につなげたいと語っている。

◀New Ground — 新しい見方<14>▶

「電車内マナー」

小林辰明(経済2・ジャーナリズム研究会)

2時間もかければ都心に行ける我が地元では、ほとんどの大学生が実家通いである。約1時間半かけて通学する私なんぞはまだ良いほうで、2時間以上かけて学校に行くという話をよく耳にする。しかし、相対的に考えれば良いほうだとしても、自分にとってつらいことには変わりはない。小・中学校は徒歩、高校は自転車で通学していた私にとって、電車に揺られての通学は、いまだに心休まるものではない。



(提供・小田急電鉄)

その電車内であるが、最近よく目にするものがある。それは電車内でのマナーの注意を喚起するポスターだ。「携帯電話での通話の自重」、「優先席付近では携帯電話の電源を切る」、「床に座らない」、「大声で会話をしない」エトセトラ、エトセトラ。多くの「エチケット」について書かれている。また、「iPod」などのポータブル音楽プレーヤーが広く普及してからは「イヤホン・ヘッドホンからの音漏れ注意」も顕著に見られるようになった。車内のマナーのうち、私たちが最も意識するものと言えば「高齢者やけが人、妊婦に席を譲る」だと思う。誰もが子供のころに親から注意されたことだろう。それ故に普段から意識することも多く、行動に移すのも簡単だ。いや、これに限らず「マナー」というものは決して難しいものではなく、大半が容易なものだ。

だが、これらのほとんどは守られていないのでは、とも思う。さもないと、こんな当たり前のことについてのポスターなんか作りはしないだろう。私もなるべく席を譲りたいと思うのだが、あまり実行に移したことはない。疲れている、気づかない、理由はいろいろある。だが所詮はどれも言い訳だろう。電車に乗るときは、周りの人に対する配慮、公衆道徳が必要だ。そう思いながら、私は今日も電車に乗る。

体育会地域貢献活動

「ONE DAY TEAMMATE 2007夏」参加者募集

大学生のスピード・パワー・テクニックを体感してみませんか？

競技種目により対象者、定員、申し込み日程等が異なりますので詳細は[体育会ホームページ](#)で。参加無料。

▽7/14 [フラッグフットボール]

▽7/15 [ヨット@江ノ島]

▽7/21 [トレーニング][親子ボクササイズ]

▽7/22 [テニス(女子)][バスケットボール(男子・女子)]

▽8/2 [水球]

▽8/4 [キッズ空手][親子で合気道]

▽8/18 [バレーボール][キックボクササイズ]

▽8/19 [テニス(男子・伊勢原)]

▽8/26 [アーチェリー]

▽9/8 [レスリング]※合宿先で実施＝水球(山形)、剣道(岡山)、フェンシング(秋田)

お問い合わせ 体育事務課 電話 044(911)1273

<<マンガ>>

坂

(漫画研究同好会 作)

